

令和5年度箕田小学校 校内研修計画

| | |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 心豊かで明るく実行力のある子の育成 |
| 研究主題 | 子どもの主体性を生む、ICTを活用した授業デザイン ～学び合い、考えを豊かにしていく子どもの育成～ |
| 教科領域等 | 全領域 |

1 主題設定の趣旨

(1) 児童の実態より

本校の児童は、答えが明確な問いに対しては積極的に答えることができる。しかし、自分なりの考えを述べる場面では、意見をうまく伝える自信がないため、消極的になってしまい、一部の児童の意見で物事が進んでいくことが見られる。また、学習においては、受け身の学習態度であったり、人の話をしっかり聞いていなかったりする姿も見られる。自分の意見に自信を持つためには、根拠をはっきり持つことが大切である。児童間で学び合い、考えを豊かにしていくための補助ツールとしてICTを適切に活用することで、根拠となる考えを共有することや考える時間を確保するための意見の集約時間の短縮を狙うことができると考える。

そこで、今年度は、キーワードとなる「主体性」の持つ実際的な活動のイメージの共通理解を再度図った上で、適切な課題設定の上で課題の解決に向けて活動する子どもの助けとしてのICTの有効な活用を研修していく。

(2) 学習指導要領の位置づけより

平成29年3月の改訂により、「情報活用能力」が、言語能力などと同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた。ICT環境を整備し、これらを適切に活用した学習活動の充実に配慮すること、新小学校学習指導要領では、コンピュータでの文字入力など情報手段の基本的な操作を習得する学習活動を充実することについて明記された。情報活用能力とは、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報の収集・整理・分析・表現・発信等を行うことができる力であり、さらに情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むもの。

[情報活用能力を構成する資質・能力]

| | | |
|---|---|---|
| 知識及び技能 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。 | 思考力・判断力・表現力 様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出す力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。 | 学びに向かう力・人間性 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。 |
|---|---|---|

(3) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやSNSなどが児童生徒に急速に普及しており、これらの利用によってトラブルや犯罪に巻き込まれる事例が発生している。こうした背景を踏まえ、児童生徒が犯罪被害などの危険を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするとともに、人権などの自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任を持ち、健康に留意して情報機器を利用することができるようにするため、情報モラル教育の充実に推進していく。その中で相手を意識した意思の伝達をより心がけられるような働きかけを大切に指導していく。

2 研究内容について

(1) 「主体性を生む、ICTを活用した授業デザイン」とは

学習課題に対して、子どもが自らどのように学習を進めるかを考え、方法を選択する姿を主体性が生まれていると捉える。その学習の過程をよりよいものにするために、ICTをどのように活用すると有効かを教師が考え取り入れた授業を「ICTを活用した授業デザイン」と考える。

(2) 「学び合い、考えを豊かにしていく」とは

授業の中で子どもたちが「学び合い、考えを豊かにしていく」とは、子どもが初めにもっていた考えが、対話によって変化したり、より自信の持てる意見になったりすることだと考える。

① 考えの変化：初めに持っていた自分の考えが友達の意見を聞くうちに考えを問い直し、「違う意見に変わった」という場合。

② 考えの構築：友達の意見を聞き、自身の考えをもてるようになった場合。

③ 考えの再構築：友達の意見を聞き、違った視点からみた根拠を知るうちに、自分の意見が揺らいだり、確信が持てなくなったりする場合。そしてさらにそこから自分の考えを問い直していく場合。

④ 考えの深化：根本的な意見は変わらないが、意見の根拠がしっかりし、自分の意見にさらに確信がもてるようになった場合。

これらは、自分の考えがどのように変わったか如何にかかわらず、授業の学び合いの中で自分の考えが揺さぶられ、考えの根拠が多様になり、深まったり確かになったりしていることになる。

3 手立て・指導について

(1) 課題の設定

課題は、子どもたちの興味・関心に沿ったもの、発達段階にあっているもの、様々な考えが持てるもの、既習事項とつなげて考えられるもの、発展性（広がりや深まり）が期待できるものの中から、単元を通して子どもたちが取り組むことができるものを設定していく。課題解決に向けた学習活動の方法を子ども自身が選択できる余地を作っていく。

(2) ICTの活用場面を想定しておく

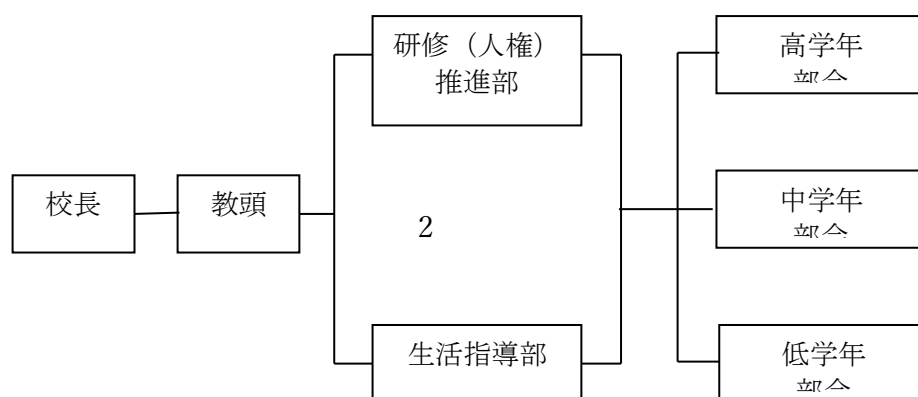
今年度は授業のどの場面においてもICTをどう活用するかを検討し、取り入れていく。また、ICTを活用して、児童の考えを交流することを通して、認め合いができるようにしていく。学習の課題にあったアプリやICT機器の活用を念頭に置くようにする。子どもが選択し、活用していくことができるようにしていく。

(3) ICTの活用場面の意識的な位置づけ

時間を短縮させるためのICTの活用場面と学び合いのためのICTの活用場面は、教師側が活用の位置づけをより意識的に行う必要がある。意見を集約する場面は活動時間の短縮であって、協働的に課題を解決する学習場面にはなり得ない。学び合いとICTの活用をつなげるためには、①情報を2人以上でシェアする、②情報を同じ目的（統合、分類、比較、関連付けなど）に沿って操作する、の2つの要素を学習活動の中に設定することが必要だと考える。

(4) ふりかえり活動の充実

4 研修組織



5 研究授業について

年間3本、ICTを取り入れた授業の公開授業を行う。

全体発表 → 各学年部から授業提案を1本ずつ（1学期1本，2学期2本）

事前検討&事後検討を行う。

指導主事の先生に来ていただく。（3回）

人権発表 → 各学年部1本

（人権の全体研1本【そのうち校区人権公開授業1本】）

事前検討&事後検討を行う。

① 指導案について

全体発表は教材解釈や指導についてなどもつけて指導案を作成するが、重要な点のみを簡潔にまとめる。

学年部内発表は、本時案のみの略案で構わない。

作成時に、各学年や学年部などでの話し合う機会を大事にする。

② まとめについて

年度末に指導案に、成果と課題をつけて作成する。

6 その他

(1) ミニ公開授業（教員の授業力UP）

経験年数5年以下研，師範授業形式（授業者の見方・考え方）・・・

全体研以外に校内でミニ公開授業を行う。

- ・公開する授業者の学年部から必ず一人参観する。
- ・実施日と教科については、1週間前までに予告する。
- ・略案については、前日までに配付する（当日の変更可）

(2) 基礎学力をつけるための手立て

① 補充学習「みだっこタイム」について

時間・・・基本は月曜日の朝 8:25~8:40

*必要に応じて放課後の時間を利用し補充学習を行う。

（放課後は5限で下校する学年の担任に補助を依頼できる。）

対象・・・全学年

内容

- ・基礎学力の定着を図る。今年度は算数の計算に限らない。既習内容の復習中心。
- ・ボランティアさんは依頼しない。

② 自主学习（チャレンジ学習）について

◎チャレンジ学習ノートを購入する。

◎「週1回は提出する」

◎表を使って取り組んだ内容が見える化する

などまとめる媒体や取り組ませる頻度・方法は各学年で相談して決める

→月に1回程度校内の掲示スペースに掲示する

(3) 英語の研修について

今年度も研修を続け、授業の充実を行っていく。国語科とともに言語能力の向上を目指す。

(4) 道徳の研修について

今年度も、評価や「学びの記録」と授業の充実を行っていく。特別の教科である道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う

(5) 読書環境の整備

- ・ 図書担当と連携して行う。
- ・ 木曜日に朝の読書時間、またはボランティアによる読み聞かせを実施する。

(6) 年間学習計画一覧表について

昨年度の年間計画を参考にして、各学年で作成する。→ 担当でまとめをする。

(7) モジュール学習について

- ・ 火、水、金曜日 8:25～40 に、15分間のモジュール学習を行う。

原則は、国語、算数、外国語活動を中心に授業内容を進める形で実施する。ただし、行事の前など特別な場合はこれに限らない。

7 年間研修実施計画

| | 取り組み | 月 | 全体研修の内容 |
|-----|--|----|--|
| 一学期 | ・ 本年度の研修内容を学校教育目標と照らし合わせ、生活指導、人権教育との関連を図りながら吟味 ・ 今年度の研修の方向性、その系統性の確認 ・ 日常の授業の充実（研究主題にむけて） ・ チャレンジ学習（主体性の育成） ・ 補充学習「みだっこタイム」 ・ 実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる） ・ 定期的な自主研修の開催 ・ ミニ公開授業 ・ 6月研究授業1本（教科・・・3年） | 4 | ・ 本年度の研修計画・方向性について ・ 特別支援在籍児童の情報共有 ・ スタディチェック自校採点・分析 |
| | | 5 | ・ 人権推進計画 ・ 児童理解研修 ・ 情報モラル教育研修 |
| | | 6 | ・ 人権学習の交流（箕田小の課題に対して） ・ 情報機器活用実践交流 |
| 夏休み | ・ 1学期の総括と2学期に向けて | | ・ 全国学力学習状況調査自校採点・分析 ・ ・ |
| 二学期 | ・ 9月研究授業1本（教科・・・2年） ・ 11月研究授業1本（教科・・・5年） ・ 人権授業（校区人権公開授業・・・2年） ・ 実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる） ・ 定期的な自主研修の開催 ・ ミニ公開授業 ・ 日常の授業の充実 ・ チャレンジ学習 ・ 補充学習「みだっこタイム」 | 9 | ・ 研究授業 |
| | | 10 | |
| | | 11 | ・ 研究授業 |
| | | 12 | |
| 三学期 | ・ 実践の記録を残していく（成果と課題へつなげる） ・ 定期的な自主研修の開催 ・ ミニ公開授業 | 1 | |

| | | |
|--|---|--------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の授業の充実 ・ チャレンジ学習 ・ 補充学習「みだっこタイム」 ・ 成果と課題の検討 及び 一年間の研究紀要の作成 ・ 一年間の取り組みの反省 次年度に向けて | 2 | ・ 年間指導計画の見直し |
| | 3 | ・ 研修の反省・まとめ |